

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和4年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	広島大学	整 理 番 号	1813
プログラム名称	ゲノム編集先端人材育成プログラム		
プログラム責任者	田原 栄俊	プログラムコーディネーター	山本 卓
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の制度設計が定着しつつあり、確実に進捗している。特に修学プログラムが異なる医学系研究科と統合生命科学研究科の学生に対して、それぞれ工夫したカリキュラムが形成されている。 ・現在の修了生は研究者を目指すポストク 2 名、ベンチャー起業 1 名、社会人 1 名であり順調に進んでいると見做せる。 ・令和元年度の現地視察報告書、令和 3 年度の間接評価における留意事項に関してそれぞれ具体的に対応していることを確認した。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野を超えた視野と高い専門性の両立を目指した研究科再編の中で、本プログラムが令和 5 年 4 月設立予定のスマートソサイエティ実践科学研究院の原動力になっており、大学院改革の先導になっている。 ・研究室、研究科の枠を超えた協働を通して教員のマインドセットの変化が実感されており、改革が実質的に進むことが期待できる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の目的であるゲノム編集技術による新産業創出の視点が弱い。また、学生の関心がゲノム編集技術の修得に留まっているように思われる。ビジネスマインド教育、海外の事例紹介等、刺激策が望まれる。 ・学生はゲノム編集技術をめぐる知的財産権や倫理的課題、社会的受容性などに積極的な関心を持っており、これらの関心に応えるためにも、人文社会系の教員との接点を増やす取組が欲しい。 ・学生の海外志向は前向きだが、国際学会での報告への関心などにとどまっており、具体的などころまで掘り下げられておらず、海外との連携や共同研究等を拡大していく中で学生を積極的に巻き込むことが望まれる。 ・留学生の在籍者が 1 名しかいない。長引くコロナ禍のもとの制約があったにせよ、留学生の確保に努めて欲しい。 ・学生側から、国内学会への参加経費も、本年度から削減されている旨の発言があった。学生への経済的支援策が先細りにならないような配慮が欲しい。 			